

# iFree オールカントリー (全世界株式) ESGインデックス (愛称：未来へつなぐオール カントリー (ミラカン) )

## 運用報告書 (全体版) 第4期

(決算日 2026年4月10日)

(作成対象期間 2025年4月11日~2026年4月10日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式／インデックス型	
信託期間	無期限 (設定日：2022年5月10日)	
運用方針	投資成果をMSCI ACWI ESG Leaders指数 (配当込み、円ベース) の動きに連動させることをめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	全世界株式ESGインデックスマザーファンドの受益証券
	全世界株式ESGインデックスマザーファンド	イ、日本を含む世界の金融商品取引所上場および店頭登録 (上場予定および店頭登録予定を含みます。) の株式 (DR (預託証券) を含みます。)。 ロ、株価指数先物取引 ハ、日本を含む世界の株価指数との連動をめざすETF (上場投資信託証券)
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界の株式に投資し、投資成果をMSCI ACWI ESG Leaders指数 (配当込み、円ベース) の動きに連動させることをめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
お問い合わせ先 (コールセンター)  
TEL 0120-106212  
(営業日の9:00~17:00)  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

## 設定以来の運用実績

決算期	基準価額			MSCI ACWI ESG Leaders 指数 (税引後配当込み、円ベース)		株式組入率 比	株式先物率 比	投資信託 受益証券 組入比率	投資証券 組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(ベンチマーク)	期中 騰落率					
1 期末(2023年 4月10日)	円 10,647	円 0	% 6.5	10,316	% 3.2	% -	% 7.6	% 2.8	% 89.7	百万円 163
2 期末(2024年 4月10日)	14,944	0	40.4	14,581	41.3	-	5.3	2.6	92.0	384
3 期末(2025年 4月10日)	14,679	0	△ 1.8	14,109	△ 3.2	-	3.6	13.3	83.4	618
4 期末(2026年 4月10日)	20,567	0	40.1	20,318	44.0	-	4.4	13.9	81.7	1,264

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI ACWI ESG Leaders指数（税引後配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.（「MSCI」）の承諾を得て、MSCI ACWI ESG Leaders指数（税引後配当込み、米ドルベース）をもとに円換算し、当ファンド設定日の前営業日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCI ACWI ESG Leaders指数（税引後配当込み、米ドルベース）は、MSCIが開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。（<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>）

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

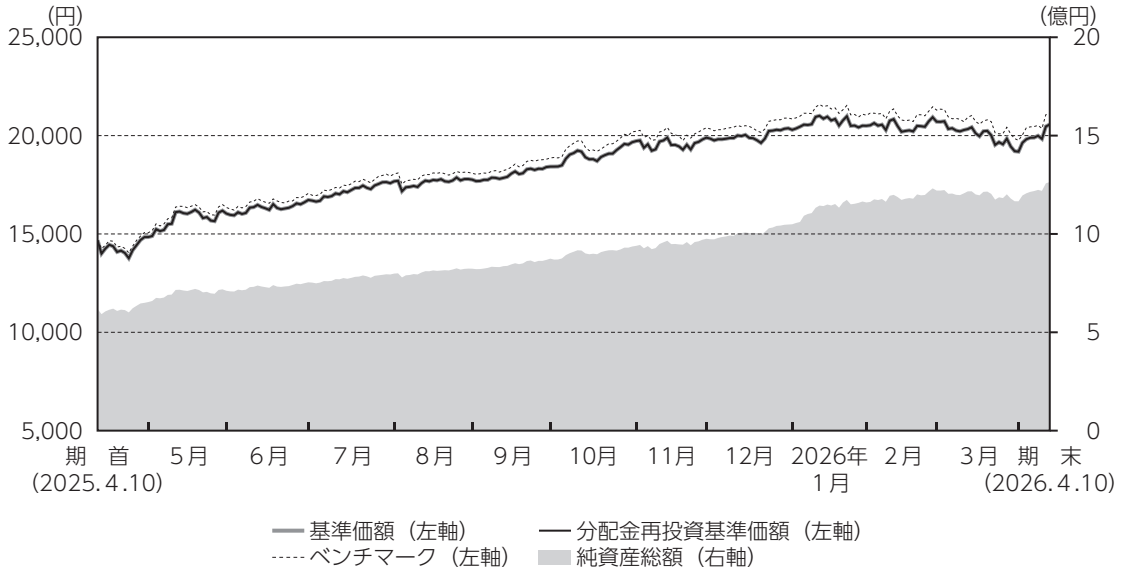
(注5) 組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- \* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- \* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- \* ベンチマークはMSCI ACWI ESG Leaders指数（税引後配当込み、円ベース）です。

### ■ 基準価額・騰落率

期首：14,679円

期末：20,567円（分配金0円）

騰落率：40.1%（分配金込み）

### ■ 基準価額の主な変動要因

マザーファンドを通じて投資成果をベンチマークに連動させることをめざした運用を行った結果、株式市況が上昇したことや、為替相場が円安に推移したことがプラス要因となり、当ファンドの基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

iFree オールカントリー（全世界株式） E S Gインデックス

年 月 日	基 準 価 額		MSCI ACWI ESG L e a d e r s 指 数 (税引後配当込み、円ベース) (ベンチマーク)		株 式 組 入 率 株 比	株 式 先 物 率 株 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	投 資 証 券 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率				
(期首)2025年 4月10日	円 14,679	% -	14,109	% -	% -	% 3.6	% 13.3	% 83.4
4 月末	14,842	1.1	14,477	2.6	-	3.7	13.5	83.1
5 月末	16,037	9.3	15,712	11.4	-	3.6	13.5	83.1
6 月末	16,727	14.0	16,402	16.2	-	3.6	13.3	83.1
7 月末	17,676	20.4	17,353	23.0	-	3.6	13.2	83.2
8 月末	17,761	21.0	17,383	23.2	-	3.5	13.3	83.0
9 月末	18,423	25.5	18,132	28.5	-	4.2	12.5	76.2
10月末	19,722	34.4	19,435	37.7	-	4.5	13.5	82.3
11月末	19,897	35.5	19,605	39.0	-	4.3	13.3	82.1
12月末	20,293	38.2	20,036	42.0	-	4.2	13.4	82.4
2026年 1 月末	20,498	39.6	20,218	43.3	-	4.7	13.5	82.1
2 月末	20,706	41.1	20,470	45.1	-	4.6	13.4	81.9
3 月末	19,184	30.7	18,988	34.6	-	4.5	13.3	82.1
(期末)2026年 4月10日	20,567	40.1	20,318	44.0	-	4.4	13.9	81.7

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2025.4.11～2026.4.10)

### ■海外株式市況

海外株式市況は上昇しました。

海外株式市況は、当作成期首より、トランプ米国政権による相互関税が想定よりも厳しい内容となったことを受けて世界経済への影響が懸念されましたが、その後は、相互関税の上乗せ税率適用の90日間停止が発表されたことから、上昇しました。2025年7月以降も、米国の関税をめぐる懸念が後退する中で、A I（人工知能）関連企業の成長期待が高まったことなどが相場をけん引し、上昇しました。11月に入ると、米国の追加利下げ期待が後退したことに加えて「A Iバブル論」が意識され、高値警戒感が強まったA I・半導体関連株の下落が相場の重しとなり、軟調に推移しました。その後、F R B（米国連邦準備制度理事会）高官の発言を受けた米国の利下げ期待の高まりを好感し、上昇しました。2026年3月に入ると、米国とイスラエルによるイランへの軍事攻撃でホルムズ海峡が事実上封鎖され、原油価格の急騰や世界経済の減速懸念を背景に、下落しました。

### ■為替相場

為替相場は円安となりました。

対円為替相場は、当作成期首より、日銀の審議委員が利上げを進める方針を示したことなどから、円高が進行しました。2025年5月以降は、日銀が追加利上げに対して慎重な姿勢を維持したことなどから、おおむね円安で推移しました。7月は、米国の利下げ期待が後退したことや、日本の参議院議員選挙を前に財政拡張懸念が強まったことなどから、円安基調が継続しましたが、8月以降は強弱まちまちの動きとなりました。10月に入ると、自民党総裁選挙の結果を受けた積極財政や緩和的な金融環境の継続への期待などから、投資家のリスク選好度が強まり、円安が進行しました。2026年1月以降は米ドル円を中心に上下に大きく振れましたが、3月に入ると中東情勢の緊迫化でリスク回避姿勢が強まり、幅広い通貨に対して米ドルが買われる中で、おおむね円安基調となりました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

主として「全世界株式E S Gインデックスマザーファンド」の受益証券に投資します。

### ■全世界株式E S Gインデックスマザーファンド

主として、日本を含む世界の株式（D R（預託証券）を含む。）に投資し、投資成果をベンチマークの動きに連動させることをめざして運用を行うことを基本とします。また、効率性の観点から日本を含む世界の株価指数との連動をめざすE T F（上場投資信託証券）や株価指数先物取引等にも投資します。

## ポートフォリオについて

(2025.4.11~2026.4.10)

## ■当ファンド

「全世界株式 E S Gインデックスマザーファンド」の受益証券への投資をほぼ100%行いました。

## ■全世界株式 E S Gインデックスマザーファンド

株式組入比率（D R（預託証券）、E T F（上場投資信託証券）、株価指数先物を含む。）は、当作成期を通じて原則として100%前後で運用を行いました。

ポートフォリオ構築にあたっては、日本を含む世界の株価指数との連動をめざす E T F を組み入れることにより、ベンチマークとの連動性を維持するような運用を行いました。また、効率性の観点から株価指数先物取引も利用しました。

\*マザーファンドのベンチマークは以下の通りです。

組入ファンド	ベンチマーク
全世界株式 E S Gインデックスマザーファンド	MSCI ACWI ESG Leaders指数（税引後配当込み、円ベース）

当ファンドは、「E S Gファンド\*」です。

\* E S Gファンドとは、E S Gを投資対象選定の主要な要素としており、その内容に関する開示が可能なファンドです。

\*当ファンドは、経済的リターンと並行して社会や環境にポジティブなインパクトをもたらす、いわゆる「社会的リターン」の獲得をめざすものではありません。

## ○ E S Gの観点により選定した銘柄への投資比率について

当ファンドは、特定の E S G指数に連動をめざすインデックスファンドです。当作成期は、日本を含む世界の株価指数との連動をめざす E T F（上場投資信託証券）を組み入れることにより、E S Gの観点から選定した銘柄に実質的に投資しました。

## ◆マザーファンドにおける E T F（上場投資信託証券）への投資割合の推移

2025年 4月末	96.6%
5月末	96.6%
6月末	96.5%
7月末	96.4%
8月末	96.3%
9月末	88.7%

2025年 10月末	95.8%
11月末	95.4%
12月末	95.8%
2026年 1月末	95.6%
2月末	95.4%
3月末	95.4%

(注) 比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

## ○大和アセットマネジメントがスチュワードシップ方針に沿って実施した行動について

大和アセットマネジメント（以下「当社」といいます。）では、当社が定める「スチュワードシップ活動に関する基本方針」のもと、投資先である企業等や社会の持続可能性の維持、向上に資するべくスチュワードシップ活動を行います。当社のE S Gに関する考えや、E S Gに関しての重要事項を「E S G投資方針」に定め、すべてのスチュワードシップ活動に適用しています。

建設的な対話については、企業等の状況の的確な把握と認識の共有に努めるとともに中長期的価値や持続可能性の向上に資することをめざして定めた「企業等との建設的な対話の方針」のもと、積極的に対話を行いました。

また、議決権行使については、賛否判断に対する基本的な考え方や具体的な基準を定めた「議決権の行使に関する方針」のもと、企業等の中長期的価値や持続可能性の向上を目的として適切に議決権を行使しました。

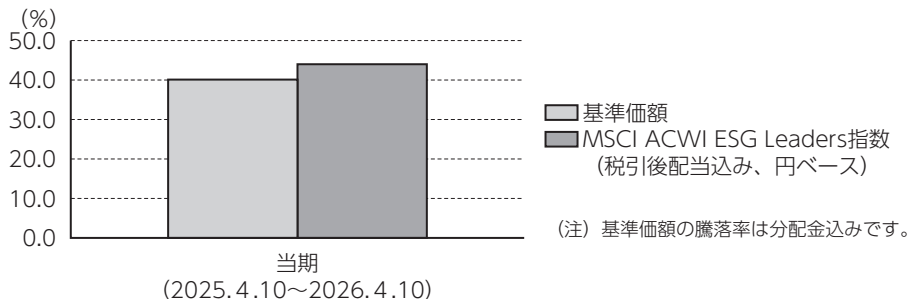
当社のスチュワードシップ方針やスチュワードシップ活動の詳細について、当社ウェブサイトにて公開しております。当社ウェブサイト「会社情報」から「スチュワードシップ活動」をご覧ください。

## ベンチマークとの差異について

当作成期のベンチマークの騰落率は44.0%、当ファンドの基準価額の騰落率は40.1%となりました。

保管費用、運用管理費用等のコスト負担、実質的な株式ポートフォリオとベンチマークとの騰落率の差異、ベンチマークとファンドの為替評価基準のずれが、かい離要因としてあげられます。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額とベンチマークとの騰落率の対比です。



\*ベンチマークはMSCI ACWI ESG Leaders指数（税引後配当込み、円ベース）です。

## 分配金について

当作成期は、信託財産の成長に資することを目的に、収益分配を見送らせていただきました。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2025年4月11日 ～2026年4月10日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	10,566

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（注4）投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

主として「全世界株式 E S Gインデックスマザーファンド」の受益証券に投資します。

### ■全世界株式 E S Gインデックスマザーファンド

主として、日本を含む世界の株式（D R（預託証券）を含む。）に投資し、投資成果をベンチマークの動きに連動させることをめざして運用を行うことを基本とします。また、効率性の観点から日本を含む世界の株価指数との連動をめざす E T F（上場投資信託証券）や株価指数先物取引等にも投資します。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2025.4.11~2026.4.10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	38円	0.209%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は18,403円です。
（投 信 会 社）	(18)	(0.099)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(16)	(0.088)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(4)	(0.022)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	3	0.015	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(0)	(0.002)	
（投資信託受益証券）	(0)	(0.002)	
（投 資 証 券）	(2)	(0.011)	
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	10	0.052	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(8)	(0.043)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(1)	(0.004)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	51	0.276	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

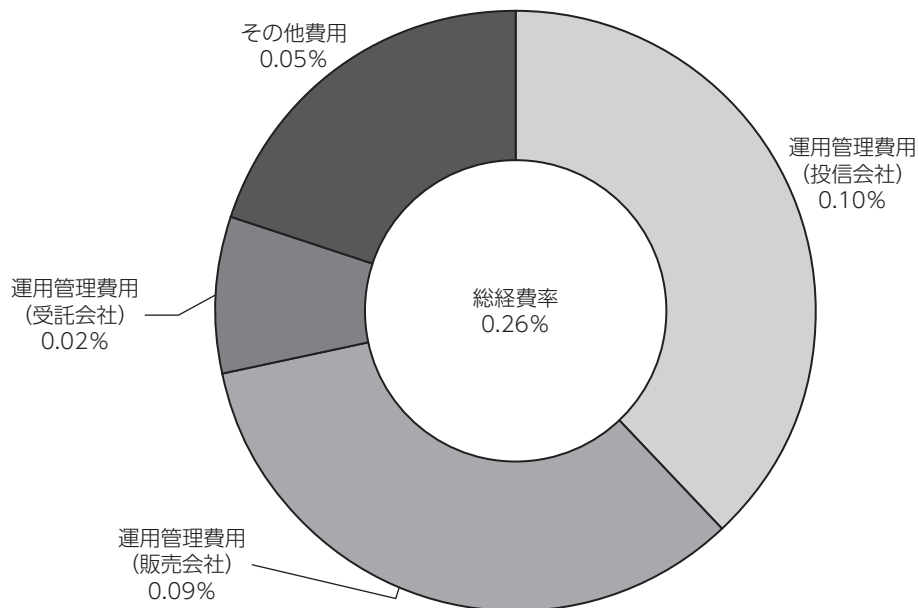
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みません。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

## ■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.26%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

## ■売買および取引の状況

## 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2025年4月11日から2026年4月10日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千□	千円	千□	千円
全世界株式E S Gインデックス マザーファンド	249,603	444,596	45,084	76,967

(注) 単位未満は切捨て。

## ■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

## ■組入資産明細表

## 親投資信託残高

種 類	期 首			当 期 末		
	□ 数	金 額	評 価 額	□ 数	金 額	評 価 額
	千□	千円	千円	千□	千円	千円
全世界株式E S Gインデックスマザーファンド	448,916	653,435	1,264,070			

(注) 単位未満は切捨て。

\* 同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。

## ■投資信託財産の構成

2026年4月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
全世界株式E S Gインデックスマザーファンド	1,264,070	99.5
コール・ローン等、その他	6,147	0.5
投資信託財産総額	1,270,217	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに資産運用業協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、4月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=159.30円、1カナダ・ドル=115.23円、1ユーロ=186.16円です。

(注3) 全世界株式E S Gインデックスマザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(1,582,315千円)の投資信託財産総額(1,593,920千円)に対する比率は、99.3%です。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年4月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	1,270,217,315円
コール・ローン等	5,148,838
全世界株式E S Gインデックス マザーファンド(評価額)	1,264,070,077
未収入金	998,400
(B) 負債	5,899,642
未払解約金	4,747,219
未払信託報酬	1,122,969
その他未払費用	29,454
(C) 純資産総額(A - B)	1,264,317,673
元本	614,732,482
次期繰越損益金	649,585,191
(D) 受益権総口数	614,732,482□
1万口当り基準価額(C / D)	20,567円

\* 期首における元本額は421,437,003円、当作成期間中における追加設定元本額は340,222,438円、同解約元本額は146,926,959円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は20,567円です。

## ■損益の状況

当期 自2025年4月11日 至2026年4月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	12,441円
受取利息	12,441
(B) 有価証券売買損益	231,853,021
売買益	276,729,015
売買損	△ 44,875,994
(C) 信託報酬等	△ 1,970,276
(D) 当期繰越損益金(A + B + C)	229,895,186
(E) 前期繰越損益金	10,078,191
(F) 追加信託差損益金	409,611,814
(配当等相当額)	( 159,252,502)
(売買損益相当額)	( 250,359,312)
(G) 合計(D + E + F)	649,585,191
次期繰越損益金(G)	649,585,191
追加信託差損益金	409,611,814
(配当等相当額)	( 159,252,502)
(売買損益相当額)	( 250,359,312)
分配準備積立金	239,973,377

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

## ■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	12,244円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	200,111,225
(c) 収益調整金	409,611,814
(d) 分配準備積立金	39,849,908
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	649,585,191
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	649,585,191
(h) 受益権総口数	614,732,482口

# 全世界株式 ESG インデックス マザーファンド

運用報告書 第4期 (決算日 2026年4月10日)

(作成対象期間 2025年4月11日～2026年4月10日)

全世界株式 ESG インデックス マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

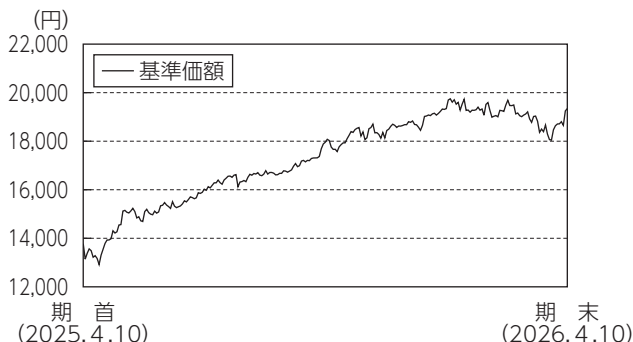
運用方針	投資成果をMSCI ACWI ESG Leaders指数（配当込み、円ベース）の動きに連動させることをめざして運用を行ないます。
主要投資対象	イ. 日本を含む世界の金融商品取引所上場および店頭登録（上場予定および店頭登録予定を含みます。）の株式（DR（預託証券）を含みます。） ロ. 株価指数先物取引 ハ. 日本を含む世界の株価指数との連動をめざすETF（上場投資信託証券）
株式組入制限	無制限

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■ 当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基 準 価 額		MSCI ACWI ESG Leaders 指数 (税引後配当込み、円ベース)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	投 資 証 券 組 入 比 率
	円	騰 落 率 %	(ベンチマーク)	騰 落 率 %				
(期首)2025年 4月10日	13,776	-	13,655	-	-	3.6	13.3	83.4
4 月 末	13,931	1.1	14,011	2.6	-	3.7	13.5	83.1
5 月 末	15,056	9.3	15,207	11.4	-	3.6	13.5	83.1
6 月 末	15,706	14.0	15,874	16.2	-	3.6	13.3	83.1
7 月 末	16,601	20.5	16,794	23.0	-	3.6	13.2	83.3
8 月 末	16,683	21.1	16,824	23.2	-	3.5	13.3	83.0
9 月 末	17,309	25.6	17,549	28.5	-	4.2	12.6	76.2
10 月 末	18,533	34.5	18,809	37.7	-	4.5	13.5	82.3
11 月 末	18,700	35.7	18,974	39.0	-	4.3	13.3	82.1
12 月 末	19,076	38.5	19,392	42.0	-	4.2	13.4	82.4
2026年 1 月 末	19,272	39.9	19,568	43.3	-	4.7	13.5	82.1
2 月 末	19,471	41.3	19,812	45.1	-	4.6	13.4	82.0
3 月 末	18,043	31.0	18,377	34.6	-	4.5	13.3	82.1
(期末)2026年 4月10日	19,345	40.4	19,664	44.0	-	4.4	14.0	81.7

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) MSCI ACWI ESG Leaders 指数 (税引後配当込み、円ベース) は、MSCI Inc. (「MSCI」) の承諾を得て、MSCI ACWI ESG Leaders 指数 (税引後配当込み、米ドルベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCI ACWI ESG Leaders 指数 (税引後配当込み、米ドルベース) は、MSCI が開発した指数です。本ファンドは、MSCI によって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCI は本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。(https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html)

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 株式先物比率は買建比率 - 売建比率です。

《運用経過》

◆ 基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：13,776円 期末：19,345円 騰落率：40.4%

【基準価額の主な変動要因】

投資成果をベンチマークに連動させることをめざした運用を行った結果、株式市況が上昇したことや、為替相場が円安に推移したことがプラス要因となり、当ファンドの基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

◆ 投資環境について

○ 海外株式市況

海外株式市況は上昇しました。

海外株式市況は、当作成期首より、トランプ米国政権による相互関税が想定よりも厳しい内容となったことを受けて世界経済への影響が懸念されましたが、その後は、相互関税の上乗せ税率適用の90日間停止が発表されたことから、上昇しました。2025年7月以降も、米国の関税をめぐる懸念が後退する中で、AI (人工知能) 関連企業の成長期待が高まったことなどが相場をけん引し、上昇し

ました。11月に入ると、米国の追加利下げ期待が後退したことに加えて「AIバブル論」が意識され、高値警戒感が強まったAI・半導体関連株の下落が相場の重しとなり、軟調に推移しました。その後、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官の発言を受けた米国の利下げ期待の高まりを好感し、上昇しました。2026年3月に入ると、米国とイスラエルによるイランへの軍事攻撃でホルムズ海峡が事実上封鎖され、原油価格の急騰や世界経済の減速懸念を背景に、下落しました。

○為替相場

為替相場は円安となりました。

対円為替相場は、当作成期首より、日銀の審議委員が利上げを進める方針を示したことなどから、円高が進行しました。2025年5月以降は、日銀が追加利上げに対して慎重な姿勢を維持したことなどから、おおむね円安で推移しました。7月は、米国の利下げ期待が後退したことや、日本の参議院議員選挙を前に財政拡張懸念が強まったことなどから、円安基調が継続しましたが、8月以降は強弱まちまちの動きとなりました。10月に入ると、自民党総裁選挙の結果を受けた積極財政や緩和的な金融環境の継続への期待などから、投資家のリスク選好度が強まり、円安が進行しました。2026年1月以降は米ドル円を中心に上下に大きく振れましたが、3月に入ると中東情勢の緊迫化でリスク回避姿勢が強まり、幅広い通貨に対して米ドルが買われる中で、おおむね円安基調となりました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

主として、日本を含む世界の株式（DR（預託証券）を含む。）に投資し、投資成果をベンチマークの動きに連動させることをめざして運用を行うことを基本とします。また、効率性の観点から日本を含む世界の株価指数との連動をめざすETF（上場投資信託証券）や株価指数先物取引等にも投資します。

◆ポートフォリオについて

株式組入比率（DR（預託証券）、ETF（上場投資信託証券）、株価指数先物を含む。）は、当作成期を通じて原則として100%前後で運用を行いました。

ポートフォリオ構築にあたっては、日本を含む世界の株価指数との連動をめざすETFを組み入れることにより、ベンチマークとの連動性を維持するような運用を行いました。また、効率性の観点から株価指数先物取引も利用しました。

◆ベンチマークとの差異について

当作成期のベンチマークの騰落率は44.0%、当ファンドの基準価額の騰落率は40.4%となりました。

保管費用等のコスト負担、実質的な株式ポートフォリオとベンチマークとの騰落率の差異、ベンチマークとファンドの為替評価基準のずれが、かい離要因としてあげられます。

\*ベンチマークはMSCI ACWI ESG Leaders指数（税引後配当込み、円ベース）です。

《今後の運用方針》

主として、日本を含む世界の株式（DR（預託証券）を含む。）に投資し、投資成果をベンチマークの動きに連動させることをめざして運用を行うことを基本とします。また、効率性の観点から日本を含む世界の株価指数との連動をめざすETF（上場投資信託証券）や株価指数先物取引等にも投資します。

■1万口当りの費用の明細

項目	当期
売買委託手数料	2円
（先物・オプション）	(0)
（投資信託受益証券）	(0)
（投資証券）	(2)
有価証券取引税	-
その他費用	8
（保管費用）	(7)
（その他）	(1)
合計	10

(注1) 費用の項目および算法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

# 全世界株式ESGインデックスマザーファンド

## ■売買および取引の状況

### (1) 投資信託受益証券

(2025年4月11日から2026年4月10日まで)

銘	柄	買 付		売 付	
		□ 数	金 額	□ 数	金 額
外国	<b>アメリカ</b>	千□	千アメリカ・ドル	千□	千アメリカ・ドル
	ISHARES ESG AWARE MSCI EAFE ETF (ETF)	1.16	111	—	—
	ISHARES ESG MSCI EM LEADERS ETF (ETF)	5.45	311	5.76	334
	<b>カナダ</b>	千□	千カナダ・ドル	千□	千カナダ・ドル
	BMO MSCI CANADA SELECTION EQUITY I (ETF)	2.06	101	1.91	94

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

### (2) 投資証券

(2025年4月11日から2026年4月10日まで)

銘	柄	買 付		売 付	
		□ 数	金 額	□ 数	金 額
外国	<b>アメリカ</b>	千□	千アメリカ・ドル	千□	千アメリカ・ドル
	XTRACKERS MSCI USA SELECTION EQUIT (ETF)	32.785	1,986	26.04	1,578
	XTRACKERS MSCI EAFE SELECTION EQUI (ETF)	16.89	585	14.8	508
	ISHARES ESG AWARE MSCI EM ETF (ETF)	0.4	18	—	—

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

### (3) 先物取引の種類別取引状況

(2025年4月11日から2026年4月10日まで)

種 類 別	買 建		売 建	
	新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
外国 株式先物取引	百万円 232	百万円 219	百万円 —	百万円 —

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

## ■組入資産明細表

### (1) 外国投資信託受益証券

銘	柄	期 首		期 末	
		□ 数	□ 数	評 価 額	評 価 額
				外貨建金額	邦貨換算金額
<b>(アメリカ)</b>		千□	千□	千アメリカ・ドル	千円
	ISHARES ESG AWARE MSCI EAFE ETF (ETF)	—	1.16	116	18,576
	ISHARES ESG MSCI EM LEADERS ETF (ETF)	16.57	16.26	983	156,653
アメリカ・ドル	□数、金額	16.57	17.42	1,099	175,229
通貨計	銘柄数<比率>	1銘柄	2銘柄		<11.0%>
<b>(カナダ)</b>		千□	千□	千カナダ・ドル	千円
	BMO MSCI CANADA SELECTION EQUITY I (ETF)	7.54	7.69	406	46,875
カナダ・ドル	□数、金額	7.54	7.69	406	46,875
通貨計	銘柄数<比率>	1銘柄	1銘柄		<2.9%>
合 計	□数、金額	24.11	25.11	—	222,105
	銘柄数<比率>	2銘柄	3銘柄		<14.0%>

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに資産運用業協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) < >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

### (2) 外国投資証券

銘	柄	期 首		期 末	
		□ 数	□ 数	評 価 額	評 価 額
				外貨建金額	邦貨換算金額
<b>(アメリカ)</b>		千□	千□	千アメリカ・ドル	千円
	XTRACKERS MSCI USA SELECTION EQUIT (ETF)	92.13	98.875	6,150	979,776
	XTRACKERS MSCI EAFE SELECTION EQUI (ETF)	51.86	53.95	1,992	317,371
	ISHARES ESG AWARE MSCI EM ETF (ETF)	—	0.4	19	3,074
合 計	□数、金額	143.99	153.225	8,162	1,300,221
	銘柄数<比率>	2銘柄	3銘柄		<81.7%>

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに資産運用業協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) < >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

(3) 先物取引の銘柄別期末残高 (評価額)

銘柄別	当 期 末	
	買 建 額	売 建 額
	百万円	百万円
外国 MSCI EMGMKT(アメリカ)	24	-
MSCI WORLD INDEX(ドイツ)	45	-

(注1) 外貨建の評価額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに資産運用業協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 単位未満は切捨て。

\* 同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。

■投資信託財産の構成

2026年4月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	222,105	13.9
投資証券	1,300,221	81.6
コール・ローン等、その他	71,593	4.5
投資信託財産総額	1,593,920	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに資産運用業協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、4月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=159.30円、1カナダ・ドル=115.23円、1ユーロ=186.16円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(1,582,315千円)の投資信託財産総額(1,593,920千円)に対する比率は、99.3%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年4月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	1,604,560,856円
コール・ローン等	39,021,201
投資信託受益証券(評価額)	222,105,434
投資証券(評価額)	1,300,221,998
未収入金	12,273,858
差入委託証拠金	30,938,365
(B) 負債	12,684,569
未払金	10,640,169
未払解約金	2,044,400
(C) 純資産総額(A - B)	1,591,876,287
元本	822,874,994
次期繰越損益金	769,001,293
(D) 受益権総口数	822,874,994口
1万口当り基準価額(C/D)	19,345円

\* 期首における元本額は777,533,553円、当作成期間中における追加設定元本額は310,084,711円、同解約元本額は264,743,270円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：  
 全世界株式 E S G インデックス (適格機関投資家専用) 169,439,958円  
 iFree オールカントリー (全世界株式) E S G インデックス 653,435,036円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は19,345円です。

■損益の状況

当期 自2025年4月11日 至2026年4月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	24,994,803円
受取配当金	23,520,200
受取利息	651,265
その他収益金	823,338
(B) 有価証券売買損益	387,907,259
売買益	388,894,228
売買損	△ 986,969
(C) 先物取引等損益	15,386,548
取引益	16,047,324
取引損	△ 660,776
(D) その他費用	△ 593,722
(E) 当期損益金(A + B + C + D)	427,694,888
(F) 前期繰越損益金	293,587,840
(G) 解約差損益金	△189,254,230
(H) 追加信託差損益金	236,972,795
(I) 合計(E + F + G + H)	769,001,293
次期繰越損益金(I)	769,001,293

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。